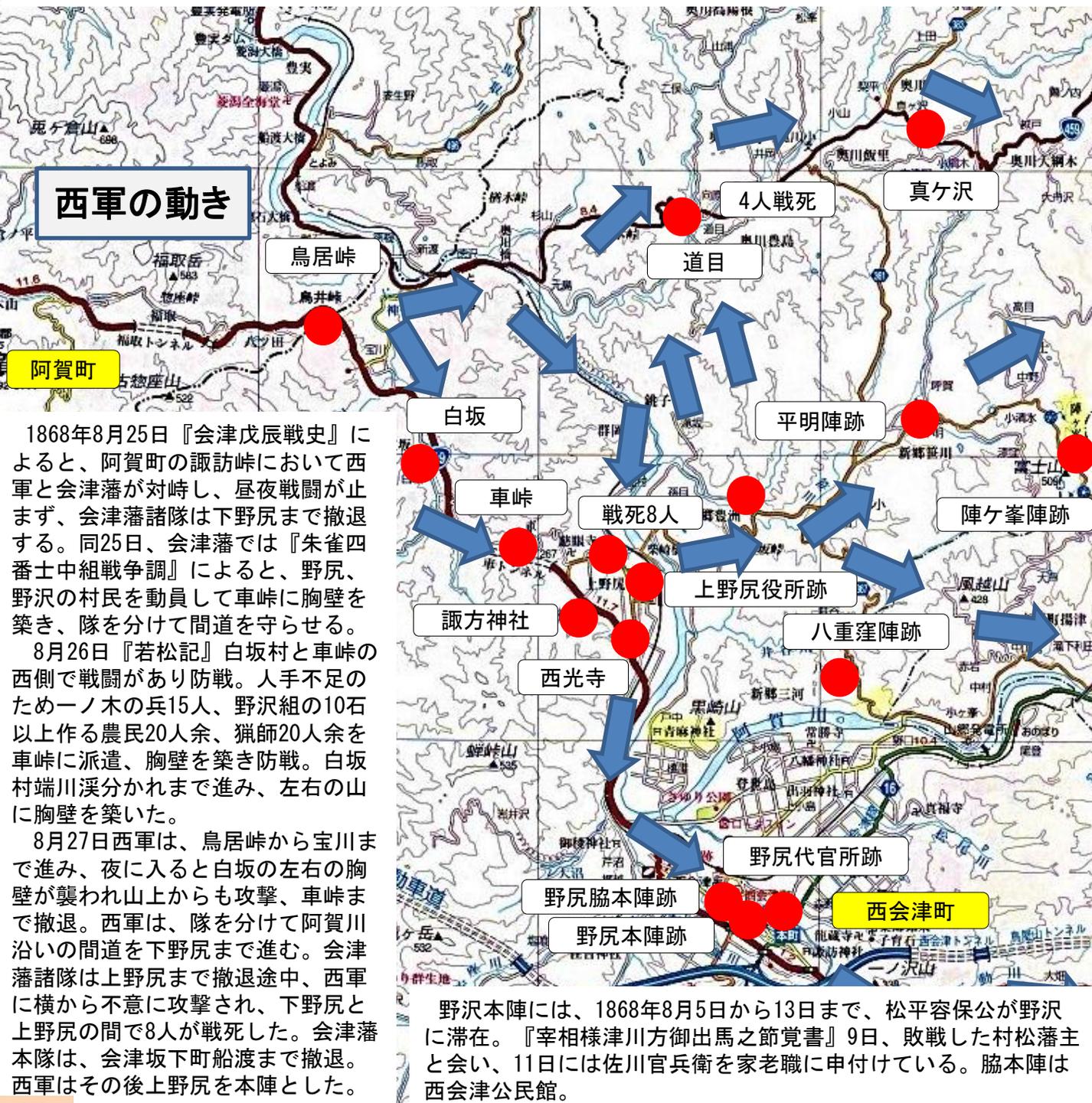


西会津からの進攻

1868年9月2日早朝、『朱雀四番隊士中組戦争調書』によると会津藩朱雀隊は、耶麻郡西会津町小綱木村を出発し真ヶ沢村へ進む。五つ時頃着。砲兵隊は道目の方へ進む。朱雀隊は新町より新村村へ行く、一同進撃の準備をし、出張していたところ、敵は早くも進撃したため、真ヶ沢村へ退却、急いで要所を見立、胸壁を築く。敵は、五、六百人余にて進攻し、大敗して夕方中反村へ引き上げる。その夜中反村と小綱木村との間の峠へ番兵を置く。半隊頭遠藤源太夫、隊士安藤元四郎、附属小隊頭有賀円治、外に附属隊の者が討死した。



西軍の動き

1868年8月25日『会津戊辰戦史』によると、阿賀町の諏訪峠において西軍と会津藩が対峙し、昼夜戦闘が止まず、会津藩諸隊は下野尻まで撤退する。同25日、会津藩では『朱雀四番隊士中組戦争調書』によると、野尻、野沢の村民を動員して車峠に胸壁を築き、隊を分けて間道を守らせる。8月26日『若松記』白坂村と車峠の西側で戦闘があり防戦。人手不足のため一ノ木の兵15人、野沢組の10石以上作る農民20人余、獵師20人余を車峠に派遣、胸壁を築き防戦。白坂村端川溪分かれまで進み、左右の山に胸壁を築いた。

8月27日西軍は、鳥居峠から宝川まで進み、夜に入ると白坂の左右の胸壁が襲われ山上からも攻撃、車峠まで撤退。西軍は、隊を分けて阿賀川沿いの間道を下野尻まで進む。会津藩諸隊は上野尻まで撤退途中、西軍に横から不意に攻撃され、下野尻と上野尻の間で8人が戦死した。会津藩本隊は、会津坂下町船渡まで撤退。西軍はその後上野尻を本陣とした。

野沢本陣には、1868年8月5日から13日まで、松平容保公が野沢に滞在。『宰相様津川方御出馬之節覚書』9日、敗戦した村松藩主と会い、11日には佐川官兵衛を家老職に申付けている。脇本陣は西会津公民館。